

農林水産省登録
第 10601 号

日農 高精製マシン油乳剤 スプレーパー

カイガラムシ類・ハダニ類の防除に!



幅広い作物に適用があり、また経済性に優れます。

カイガラムシ類・ハダニ類に高い効果を示します。

天敵に対する影響が少ない薬剤です。

適用病害虫および使用方法

2026年4月適用拡大

<2026年4月現在の登録内容>

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	マシン油を含む農薬の総使用回数
かんきつ	ヤノネカイガラムシ幼虫 その他のカイガラムシ類 ハダニ類	100~200倍	200~700ℓ/10a	4月~10月	-	散布	-
	サビダニ類	100倍		-			
	ヤノネカイガラムシ その他のカイガラムシ類 ハダニ類 ハダニ類の越冬卵	50~80倍		12月~3月			
りんご	カイガラムシ類 ハダニ類 ハダニ類の越冬卵	25~50倍	200~700ℓ/10a	発芽前	-	散布	-
	ハダニ類	50倍		芽出直前直後			
		100倍		展葉期（発芽後2週間まで）			
		200倍		展葉期（発芽後3週間まで）			
カイガラムシ類	50倍	展葉期					
もも ネクタリン	カイガラムシ類 ハダニ類 ハダニ類の越冬卵	25~50倍	200~700ℓ/10a	-	-	散布	
なし	カイガラムシ類	30~50倍					
	ハダニ類 ハダニ類の越冬卵 ニセナシサビダニ	30~200倍					
うめ	カイガラムシ類	30~50倍	-	-	-	-	
くり		50倍					
すもも		20~50倍					
おうとう	アブラムシ類	60倍	-	-	-	-	
		100倍					
あんず かき	カイガラムシ類	25~50倍	-	-	-	-	
キウイ フルーツ		100倍					
ブルーベリー	ミズキカタカイガラムシ	60倍	-	-	-	-	
マンゴー	100倍						
いちご	ハダニ類	100~150倍	100~300ℓ/10a	10月~3月	1回	5~10秒間苗浸漬	-
		100倍	-	定植前			
なす	100~150倍	100~300ℓ/10a	-	-	-	-	
きゅうり	200倍						
茶	クワシロカイガラムシ	100~150倍	1000ℓ/10a	5月~9月	-	散布	-
	ハダニ類	50~100倍		10月~3月			
		100~150倍	5月~9月				
		50~100倍	10月~3月				
チャトゲコナジラミ	50倍	200~400ℓ/10a	10月~3月				
すぎ	スギマルカイガラムシ	100倍	200~700ℓ/10a	3月~10月	-	-	
さくら	カイガラムシ類	50倍		発芽前			
桑	クワシロカイガラムシ	30倍	100~300ℓ/10a	12月~3月	-	-	-
	クワシロカイガラムシ若齢幼虫	60~100倍		5月~11月ふ化幼虫期			

注意事項

●高温時の散布では薬害を生じやすいので、散布は日中を避け朝夕の涼しい時に所定濃度範囲の低濃度で行ってください。●散布直後の降雨は、本剤の効果が低下するので、特に冬期散布においては、好天の続くときに散布してください。●調製した薬液は速やかに散布してください。●石灰硫黄合剤、ボルドー液などのアルカリ性薬剤やジチアノン剤、TPN剤などの水和剤及び銅剤との混用はさけてください。●かんきつに使用する場合は下記の事項に注意してください。1)散布後、葉（特に旧葉）に油浸斑を生じることがありますが日数の経過に従って、消失し、落葉を助長することはありません。但し、かんばつ等で樹勢が弱っている場合には散布しないでください。2)ジチアノン剤との近接散布は果実に薬害を生じる危険があるのでさけてください。3)3月に本剤を使用する時は、なるべく早めに散布してください。この場合石灰硫黄合剤の散布はさけてください。●りんごに使用する場合は、芽出直後の散布は時期を失ないようにしてください。遅れて散布すると、葉の周囲が褐変することがあるので、使用濃度に注意してください。●りんごの展葉期に使用する場合は下記の事項に注意すること。1)展葉期の散布では葉の周囲が褐変する薬害が生じることがあるので遅れて散布すると、葉だけでなく花弁にも薬害が生じる可能性があるので注意すること。2)樹勢が弱っている場合は薬害が出やすいので散布をさけること。3)カイガラムシ類の防除を目的とする場合はナシマルカイガラムシを主体に散布すること。4)フェンパレレートを含む農薬との混用散布はモザイク症状の薬害が発生するおそれがあるのでさけること。●りんごの赤果肉品種では、展葉期以降に散布すると葉に赤点などの薬害が現れることがあるため、散布をさけること。●桑に使用する場合は、発芽後の散布は薬害を生じるので、冬期又は夏初直後に使用してください。●クワシロカイガラムシ対象の場合は、散布量を十分にし、樹幹がよくぬれるように散布してください。特に茶は株元に十分かかるように散布してください。●うめに使用する場合は、新芽には薬害を生じるおそれがあるので使用をさけてください。●いちごの苗を薬液に浸漬して使用する場合は、下記の事項に注意してください。1)いちごの苗を薬液に浸漬して使用する場合は、浸漬直前に薬液を十分攪拌してからおこなってください。2)苗の浸漬の直前に攪拌しなかった場合、重度の薬害（場合によっては収穫不可となる）が認められる場合があります。また、十分攪拌

した上で浸漬処理した場合でも葉や茎に油浸斑が認められることがありますが、その後の生育には影響しません。3)高温時は薬害を生じるおそれがあるのでさけてください。4)軟弱徒長苗での使用は薬害を生じるおそれがあるのでさけてください。5)初めて苗浸漬をおこなう場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を確認し、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。●きゅうり、なす、いちごに使用する場合は下記の事項を守ってください。1)幼苗期の散布は薬害を生じるおそれがあるのでさけてください。また、連続散布する場合は散布間隔は7日以上あけるとともに、過度の運用はさけてください。2)収穫間近に散布すると、果実にオイル光を生じることがあるので留意してください。3)ハダニ類に対しては速効性が不十分であり、また、1回散布では効果が不十分であるので、なるべく発生初期に7~10日間隔でくり返し散布してください。4)うどんこ病に対しては、病害の発生前～発生初期から7~10日間隔でくり返し散布してください。発病後の1回散布では十分な効果は得られないので注意してください。5)いちごに使用する場合は、他剤との混用及び近接散布は薬害が生じやすくなるおそれがあるのでさけてください。●適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。●苗浸漬の際は不浸透性手袋などを着用してください。●街路、公園等で使用する場合は、散布中及び散布後（少なくとも散布当日）に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払ってください。●水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。●散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。●浸漬後の薬液は、河川等に流さず、水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。

- 使用前にはラベルをよく読んでください。
- ラベルの記載以外には使用しないでください。
- 本剤は小児の手の届く所には置かないでください。

LINE公式アカウントははじめました!
友だち募集中 最新情報をLINEで配信!
@nichino

NICHINO 東京都中央区
京橋1丁目
日本農薬株式会社 19番8号
TEL: 0570-09-1177 URL: <https://www.nichino.co.jp/>
2026年4月作成版(KB)AP12604S